

報 道 各 位

SEA JAPAN 2022 展示会への参加予定について

一般社団法人 日本船用工業会

4月20日から22日まで東京ビックサイトで開催されるSEA JAPAN 2022 展示会（1994年以来15回目）に、当工業会は、（公財）日本財団の助成を受け、国土交通省及び関係団体の協力によりジャパンパビリオンを形成するとともに、関連イベントを実施する。前回のSEA JAPAN 2020は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催中止となったことから、同展示会の開催は2018年以来4年ぶりとなる。

従来と同様に、当会は国土交通省をはじめ官庁、関連団体、関連企業より構成する「SEA JAPAN 2022 海事クラスター企画委員会（座長：国土交通省海事局船舶産業課 松本友宏舟艇室長）」を設置して実施内容を検討してきた。「地球と海に優しい技術 -持続可能なGX・DX社会へ-」をメインテーマに、日本の海事クラスターが保有する高度な技術、研究成果等を世界に向けて発信するテーマゾーンでの展示及びセミナー・関連イベントを実施する。また、ジャパンパビリオンでは、テーマゾーンでの展示とともに、会員企業64社によるメンバーズゾーンでの展示も行う。なお、昨今、国内外の展示会でもオンラインの活用が進んでおり、SEA JAPAN 2022でも新たな試みとして、オンラインによる来場者と出展者のビジネスマッチングサービスが展開される。

展示会初日である4月20日には、13時からオープニングセレモニーが開催され、その後13時20分から日本財団主催「世界初の無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」実証実験の成果報告会」が実施される。同財団 海野光行常務理事によるご挨拶及び事業概要説明に続き、各コンソーシアムからの成果報告が行われるが、既に登録者数が500名以上に達するなど関係者の関心が高まっている。

4月22日には、当会、国土交通省及び日本海事協会との共催で、「脱炭素化社会に向けた海運・造船・船用業界のチャレンジ」のテーマの下、各社・機関の脱炭素化に向けた取り組みを紹介する「船舶海洋技術セミナー」を実施する。同セミナーについては、既に事前登録受付が定員に達しており、関係者の関心の高さが伺える。

加えて、4月22日には海上保安庁のご協力を得て、最新鋭の大型測量船「平洋」の一般公開を行い、来場者が日本の最新の技術を集めた船舶の見学ができる機会を設ける。

さらに、4月21日から22日に亘り、当会の人材確保対策事業を通じて関係を築いた

全国の8大学より50名余りの学生を招き「船用業界学生イベント」を実施する。同イベントは、学生に海事業界・船用工業について学んでもらい、将来の人材確保に向けた取組みとして行うものであり、(株)商船三井 杉本義彦 技術革新本部 技術部長及び JRCS (株) 近藤高一郎代表取締役社長（当会人材養成検討委員会委員）をはじめ業界関係者による講演や、海上保安庁の協力を得て「平洋」の見学等を行うとともに、学生に広く出展企業を見学してもらうためスタンプラリーを実施し最終日に修了式を行う予定。

<展示会の概要>

会 期：令和4年4月20日（水）～22日（金）10:00～17:00

会 場：東京ビッグサイト 東ホール5・6

出展社数：342社

来場者数：20,000名（主催者発表の見込み数）

<テーマゾーンの概要>（日本財団助成事業）

内 容：我が国海事クラスターの有する技術力を内外に発信するため、国交省、関連団体、大学、海運会社等で構成する「SEA JAPAN 2022 海事クラスター企画委員会」にて検討の上、我が国で研究・開発した製品・技術等について、メインテーマの下で下記のテーマにカテゴライズし、総合的な展示を実施

メインテーマ：地球と海に優しい技術 -持続可能なGX・DX社会へ-

カテゴリ：①総合展示、②海運、③造船、④船級、⑤艦艇、⑥内航・フェリー、⑦ゼロエミッション、⑧海洋開発・洋上風力利用、⑨DX・自動運航、⑩研究テーマ

展示面積：798 m²

出展社数：51社・機関

出 展 者：日本財団、国土交通省、防衛省海上幕僚監部、防衛装備庁、海上保安庁、東京大学、横浜国立大学、(国研)海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所、(国研)海洋研究開発機構、(独法)鉄道建設・運輸施設整備支援機構、日本郵船(株)、(株)商船三井、川崎汽船(株)、川崎重工業(株)、三菱造船(株)、ジャパンマリンユナイテッド(株)、三井E&S造船(株)、(株)新来島サノヤス造船、(株)名村造船所、宮崎カーフェリー(株)、(株)名門大洋フェリー、阪九フェリー(株)、(株)フェリーさんふらわあ、東京九州フェリー(株)、新日本海フェリー(株)、商船三井フェリー(株)、オーシャントランス(株)、太平洋フェリー(株)、(株)INPEX、JX石油開発(株)、IHI原動機(株)、(株)赤阪鐵工所、(株)オートマイズ・ラボ、かもめプロペラ(株)、ダイキンMRエンジニアリング(株)、ダイハツディーゼル(株)、タマヤ計測システム(株)、ナブテスコ(株)、阪神内燃機工業(株)、BEMAC(株)、ボルカノ(株)、眞鍋造機(株)、ヤンマーパワーテクノロジー(株)、郵船商事(株)、(一財)日本海事

協会、(一財)日本船舶技術研究協会、(一財)日本造船技術センター、(一財)次世代環境船舶開発センター、(一社)日本造船工業会、(一社)日本中小型造船工業会、(一社)日本船用工業会

<セミナーの概要>

1. 世界初の無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」実証実験の成果報告会（日本財団事業）

日 時：令和4年4月20日（水）13:20～16:00

※オープニングセレモニー（13:00～13:20）後に実施

場 所：東京ビッグサイト会議棟6階

主 催：日本財団

内 容：

時間	実施概要
13:20-13:40	ご挨拶・事業概要説明 日本財団 常務理事 海野 光行 氏
13:40-15:30	各コンソーシアムによる成果報告 ・無人運航船の未来創造-多様な専門家で描くグラウンド・デザイン- ・内航コンテナ船とカーフェリーに拠る無人化技術実証実験 ・無人運航船@横須賀市猿島 ・スマートフェリーの開発 ・水陸両用無人運転技術の開発-八ッ場スマートモビリティ-
15:30-15:40	無人運航船実証実験の総括
15:40-16:00	質疑応答

2. 船舶海洋技術セミナー（日本財団助成事業）

日 時：令和4年4月22日（金）10:30～15:15

場 所：SEA JAPAN 会場内セミナールーム

主 催：国土交通省、(一財)日本海事協会、(一社)日本船用工業会

テ ー マ：脱炭素化社会に向けた海運・造船・船用業界のチャレンジ

内 容：

午前の部：10:30～11:55	
10:30～10:35 (5分)	開会挨拶 国土交通省 大臣官房技術審議官 河野 順氏
10:35～10:55 (20分)	国際海運 2050年カーボンニュートラルに向けた国の取り組みについて 国土交通省 海事局 海洋・環境政策課長 田村 顕洋氏
10:55～11:10 (15分)	アンモニア Ready LNG 燃料船の開発 日本郵船株

	工務グループ グループ長 山本泰氏
11:10~11:25 (15分)	商船三井グループ 環境ビジョン2.1について (株)商船三井 環境・サステナビリティ戦略部 環境戦略チームチームリーダー 青木 大輔氏
11:25~11:40 (15分)	自動カイトシステム「Seawing(風力推進)」の導入 川崎汽船(株) 先進技術グループ先進技術開発チーム長 山崎 伸也氏
11:40~11:55 (15分)	海運の2050 ネットゼロに向けたGSCの取組み (一財)次世代環境船舶開発センター 上席研究員 計画設計グループリーダー 平松 彩氏
午後の部:13:00~15:15	
13:00~13:15 (15分)	次世代エネルギー 水素を運ぶ -液化水素運搬船の開発- 川崎重工業(株) エネルギーソリューション&マリンカンパニー 船舶海洋ディビジョン 技術総括部 液化水素運搬船開発部 企画管理課 富永 晴彦氏
13:15~13:30 (15分)	CO2 バリューチェーンと LCO2 船による脱炭素化にむけた取組 三菱造船(株) 事業戦略推進室 海洋脱炭素グループ グループ長 田中太一氏
13:30~13:45 (15分)	浮体式洋上風力発電用セミサブ型浮体及び洋上風力関連作業船の紹介 ジャパンマリンユナイテッド(株) 海洋エンジニアリングプロジェクト部洋上風力開発グループ長 吉本 治樹氏
13:45~14:00 (15分)	GHG削減技術に関するエンジニアリングの紹介 三井E&S造船(株) 執行役員 設計部長 永所 和俊氏
14:00~14:15 (15分)	アンモニア燃焼エンジンの紹介 (株)IHI 原動機 取締役 高橋伸輔氏
14:15~14:30 (15分)	GHG低減技術の取組状況 ダイハツディーゼル(株) 技術企画戦略室 室長 花本 健一氏 (株)三井E&S マシナリー R&Dセンター 脱炭素推進システム Gr 長 宮地 健氏
14:30~14:45 (15分)	船用水素エンジンの共同開発 ~日本の水素技術を世界の海へ~ 川崎重工業(株) エネルギーソリューション&マリンカンパニーレシプロエンジン開発室室長 東田正憲氏 ヤンマーパワーテクノロジー(株) 特機事業部 開発部 先行技術部 部長 濱岡俊次氏 (株)ジャパンエンジンコーポレーション 開発部部長兼水素燃料エンジン開発推進室 室長 江戸浩二氏
14:45~15:00	GHG削減に関する日立造船の触媒技術の紹介

(15分)	日立造船株式会社 脱炭素化事業本部 船用機器・脱硝ビジネスユニット カーボンニュートラル触媒事業推進室 室長 日数谷 進氏
15:00～15:15 (15分)	ゼロエミッション船舶の開発に向けた安全基準・評価に関わる ClassNK の取り組み (一財) 日本海事協会 技術本部技術部 次長 西藤 浩一氏

< 船用業界学生イベントの概要 > (日本財団助成事業)

日 時：令和4年4月21日(木)～4月22日(金)

場 所：東京ビッグサイト各所

主 催：(一社) 日本船用工業会

参加大学：東京海洋大学、東海大学、大阪公立大学、同志社大学、神戸大学、
鳥取大学、高知大学、長崎総合科学大学、計8大学

参加者数：58名(うち引率教員5名)

内 容：

< 4月21日(木) >

時間	実施概要
12:30-12:50	学生集合
13:00-13:15	オリエンテーション
13:15-13:20	開会挨拶
13:20-14:45	我が国海事産業・船用工業の展望に関する講演 <ul style="list-style-type: none"> ・大手船社による講演 講演者：(株)商船三井 技術革新本部 技術部長 杉本 義彦氏 ・会員企業の経営層による講演 講演者：JRCS(株) 代表取締役社長 近藤 高一郎氏 ・会員企業の若手・中堅層による講演 講演者：ダイハツディーゼル(株) 技術第二部機装第二グループ 杉本 竜大氏 講演者：富士貿易(株) サプライネットワーク事業部 マネージャー 大原 俊幸氏 ・質疑応答・閉会
14:45-16:00	SEAJAPAN会場見学(スタンプラリーを実施)
16:00-17:30	海上保安庁 測量船の見学

< 4月22日(金) >

時間	実施概要
10:00-12:00	SEAJAPAN会場見学(スタンプラリーを実施)
12:00-12:50	修了式(スタンプラリー抽選) 解散
12:50-17:00	SEAJAPAN会場見学

<船舶の一般公開> (日本財団助成事業)

日 時 : 4月22日(金) 10:00~16:00
場 所 : 東京港有明西埠頭 (東京ビッグサイト隣接の岸壁)
協 力 : 海上保安庁
内 容 : 測量船「平洋」の見学

<メンバーズゾーンの概要> (自主事業)

展示面積 : 1,503 m²

出展者数 : 64社

出 展 者 : (株)IHI 原動機、(株)相浦機械、伊吹工業(株)、潮冷熱(株)、(株)ウッズ、(株)宇津木計器、(株)エヌワイ、(株)オーケーエム、ガイスリンガー(株)、神奈川機器工業(株)、かもめプロペラ(株)、川崎重工業(株)、極洋電機(株)、(株)高工社、(株)小坂研究所、(株)神戸機材、(株)サクシオン瓦斯機関製作所、(株)ササクラ、(株)サタケ、(株)サンフレム、JRCS(株)、JFE エンジニアリング(株)、(株)ジャパンエンジンコーポレーション、島田燈器工業(株)、(株)湘南工作所、(株)湘洋エンジニアリング、(株)シンコー、(株)関ヶ原製作所、大晃機械工業(株)、大洋電機(株)、ダイキンMRエンジニアリング(株)、ダイハツディーゼル(株)、(株)鷹取製作所、(株)田邊空気機械製作所、中国塗料(株)、中日輪船商事(株)、(株)帝国機械製作所、寺崎電気産業(株)、東京計器(株)、東京日進ジャバラ(株)、ナカシマプロペラ(株)、(株)浪速ポンプ製作所、ナブテスコ(株)、西芝電機(株)、(一財)日本気象協会、日本船用エレクトロニクス(株)、日本無線(株)、(株)日阪製作所、(株)日立ニコトランスミッション、BEMAC(株)、富士電機(株)、富士貿易(株)、眞鍋造機(株)、(株)ミズノマリン、三菱化工機(株)、三菱重工マリンマシナリ(株)、ムサシノ機器(株)、(株)村山電機製作所、山科精器(株)、(株)ヤマトメタル、ヤンマーパワーテクノロジー(株)、郵船商事(株)、横河電機(株)、(株)YDK テクノロジーズ

以 上